

秋田・久保田城跡



(秋田)

調査は、学校建設工事に伴う事前発掘調査で、内堀跡の一部や、築城以前の沢状の落ち込みを検出した。落ち込みには埋土が二層、

- 1 所在地 秋田市千秋明徳町
- 2 調査期間 二〇〇二年（平14）一一月
- 3 発掘機関 秋田市教育委員会
- 4 調査担当者 小松正夫・安田忠市・伊藤武士・神田和彦
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、佐竹氏の居城・久保田城の二の丸と城下町を分ける外堀内側の旧下中城町に位置する。この地域は、久保田城の丘陵直下に廻らされた内堀と外堀との間に位置し、佐竹義宣の

家老梅津主馬の屋敷にあたりと考えられる。

9 関係文献

秋田市教育委員会『市内遺跡確認調査報告書』（二〇〇三年）

（西谷 隆）



(2)

堆積土が一層確認され、岸部付近では黒褐色土の混じる植物遺体層を中心に、江戸時代前期の陶磁器や漆器椀・下駄・箸・折敷などの木製品が出土した。

木簡は、落ち込み堆積土の黒褐色土の混じる植物遺体層から二点出土した。

8 木簡の釈文・内容



(2) 御屋扇

(188) × 30 × 4 081

246 × 94 × 10 011

(1)は文字か絵か判然としない。原形は折敷である。縁辺に竹釘を打ち込んだ小孔が認められる。裏面には線状の細かな刻み痕跡が認められる。(2)は薄い板材。檜扇の一部とも考えられるが、不明である。小孔などは認められない。

(188) × 30 × 4 081

246 × 94 × 10 011